



中井政喜名誉教授

中井政喜名誉教授 年譜・著作目録

〈年 譜〉

〔学歴・職歴〕

- 1969年3月 名古屋大学文学部中国文学科卒業
1973年3月 名古屋大学大学院文学研究科中国文学専攻修士課程修了（文学修士）
1976年3月 名古屋大学大学院文学研究科中国文学専攻博士課程単位取得後満期退学
1976年4月 名古屋大学大学院文学研究科研究生（至る1980年3月）
1980年4月 大分大学経済学部講師
1981年4月 大分大学経済学部助教授（至る1987年3月）
1983年3月 在外研修員、中華人民共和国、北京第二外国語学院（至る1984年3月）
1987年4月 名古屋大学総合言語センター助教授（比較言語文化研究系）
1991年5月 名古屋大学言語文化学部教授（地域言語文化研究系）
1992年9月 在外研修員、中華人民共和国、中国社会科学院文学研究所（至る1993年9月）
1998年4月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科担当（至る2008年3月）
2003年4月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授（至る2008年3月）
2004年7月 博士学位（文学、名古屋大学）取得
2006年4月 在外研修員、中華人民共和国、中国社会科学院文学研究所（至る2006年9月）
2008年4月 名古屋外国語大学外国語学部教授、外国語学部中国語学科長（至る2016年3月）
2008年5月 名古屋大学名誉教授
2016年3月 名古屋外国語大学名誉教授

〔所属学会および活動〕

- 1974年4月 日本中国学会会員（至る2016年3月）
1991年10月 名古屋大学中国語学学会会員（1996年から2001年会長、1991年から2008年学会委員）（至る2012年）

〈著作目録〉

著書

- 『二十世紀中国文学図志』（上下）（共著）台湾業強出版社、1995・1
『中国新文学図志』（上下）（共著）、人民文学出版社、1996・8

- 『一九二〇年代中国文芸批評論』(単著)、汲古書院、2005・10・5
『魯迅探索』(単著)、汲古書院、2006・1・10
『中国現代文学図志』(共著)、生活・読書・新知三聯書店、2009・5
『二十世紀中国文学図志』(共著、共訳)、学術出版会、2009・6・30

論文

- 「魯迅の〈明〉について——とくに初期文学活動を支える思想と1918年頃の〈明〉について」(単著)、『名古屋大学中国語学文学論集』第1輯、名古屋大学文学部中国文学研究室、1976・9
「魯迅『孤獨者』覚え書」(単著)、『名古屋大学中国語学文学論集』第3輯、名古屋大学文学部中国文学研究室、1979・2
「魯迅と『労働者セヴォリョフ』との出会い(試論)〈上〉」(単著)、『野草』第23号、中国文芸研究会、1979・3・31
「魯迅と『労働者セヴィリョフ』との出会い(試論)〈下〉」(単著)、『野草』第24号、中国文芸研究会、1979・10・1
「魯迅の復讐観について」(単著)、『野草』第26号、中国文芸研究会、1980・10・31
「初期文学・思想活動から1920年頃に至る魯迅の民衆観について」(単著)、『大分大学経済論集』第32巻第4号、1980・12・20
「厨川白村と1924年における魯迅」(単著)、『野草』第27号、中国文芸研究会、1981・4・20
「魯迅と『壁下訳叢』の側面」(単著)、『大分大学経済論集』第33巻第4号、1981・12・21
「魯迅と『蘇俄的文芸論戦』に関するノート」(単著)、『大分大学経済論集』第34巻第4・5・6合併号、1983・1・20
「雑誌『奔流』(魯迅・郁達夫編、第1巻1期～第2巻5期)目録補」(単著)、『大分大学経済論集』第36巻第4号、1985・1・20
「ブローク・片上伸と1926年～29年頃の魯迅についてのノート(上) 附：魯迅訳『亜歴山大・勃洛克』」(単著)、『大分大学経済論集』第36巻第5号、1985・1・20
「ブローク・片上伸と1926年～29年頃の魯迅についてのノート(下)」(単著)、『大分大学経済論集』第36巻第6号、1985・2・20
「魯迅『傷逝』に関する覚え書」(単著)、『言語文化論集』第9巻第1号、名古屋大学総合言語センター、1987・10・30
「魯迅の〈個人的無治主義〉に関する一見解——附 江坂哲也訳『革命物語』序(アンドレ・ビラート著)」(単著)、『言語文化論集』第10巻第1号、名古屋大学総合言語センター、1988・10・30
「郭沫若『革命与文学』における『革命文学』提唱についてのノート(上) (単著)、『言語文化論集』、名古屋大学総合言語センター、第12巻第2号、1991・3・30
「郭沫若『革命与文学』における『革命文学』提唱についてのノート(下) (単著)、『言語文化論集』、名古屋大学言語文化部、第13巻第1号、1991・11・30
「俄羅斯文学影響二題」(単著)、張中良訳、『新文学史料』第64号、人民文学出版社、1994

『「奔流」紹介の三位日本、東北欧作家」(単著)、張中良訳、『新文学史料』第65号、人民文学出版社、1994

「関于《従文学革命到革命文学》与成仿吾札記」(上)(単著)、劉平校閲、『言語文化論集』第15巻第2号、名古屋大学言語文化部、1994・3・31

「関于《従文学革命到革命文学》与成仿吾札記」(下)(単著)、劉平校閲、『言語文化論集』第16巻第1号、名古屋大学言語文化部、1994・10・31

「郭沫若と『社会組織と社会革命に関する若干の考察』(河上肇著)についてのノート」(上)(単著)、『名古屋大学中国語学文学論集』第8輯、名古屋大学文学部中国文学研究室、1995・9

「郭沫若と『社会組織と社会革命に関する若干の考察』(河上肇著)についてのノート」(中)(単著)、『名古屋大学中国語学文学論集』第9輯、名古屋大学文学部中国文学研究室、1996・9

「郭沫若と『社会組織と社会革命に関する若干の考察』(河上肇著)についてのノート」(下)(単著)、『名古屋大学中国語学文学論集』第10輯、名古屋大学文学部中国文学研究室、1997・12

「茅盾(沈雁冰)と『牯嶺から東京へ』に関するノート(一)」(単著)、『言語文化論集』第21巻第2号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2000・3・8

「茅盾(沈雁冰)と『牯嶺から東京へ』に関するノート(二)」(単著)、『言語文化論集』第22巻第2号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2001・3・9

「茅盾(沈雁冰)と『牯嶺から東京へ』に関するノート(三)」(単著)、『言語文化論集』第23巻第2号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2002・3・29

「茅盾(沈雁冰)と『牯嶺から東京へ』に関するノート(四)」(単著)、『言語文化論集』第24巻第2号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2003・3・28

「茅盾(沈雁冰)と『牯嶺から東京へ』に関するノート(五)」(単著)、『言語文化論集』第25巻第1号、名古屋大学国際言語文化研究科、2003・11・28

「茅盾(沈雁冰)と『西洋文学通論』について」、『平井勝利教授退官記念 中国学・日本語学論文集』、白帝社、2004・3

「二十年代中国文芸批評論——郭沫若・成仿吾・茅盾」(単著)、2004・7、学位論文

「茅盾の三十年代前半(1930-1933)の批評論ノート」(単著)、『国際開発研究フォーラム・小栗友一教授退職記念号』第29号、名古屋大学国際開発研究科、2005・3・18

「魯迅『祝福』についてのノート(2)——語り手〈私〉について——」(単著)、『野草』第79号、中国文芸研究会、2007・2・1

「魯迅『祝福』についてのノート(1)——魯迅の民衆観から見る」(単著)、『南腔北調論集』、東方書店、2007・7・1

「魯迅『離婚』についてのノート——魯迅の民衆観等から見る」(単著)、名古屋大学国際言語文化研究科『言語文化論集』29巻2号、2008・3・31

「1926年27年における魯迅の民衆像と知識人像についてのノート(上)——魯迅の民衆像・知識人像覚え書(1)」(単著)、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第39号、2010・8・1

「1926年27年における魯迅の民衆像と知識人像についてのノート(中)——魯迅の民衆像・知識人像覚え書(2)」(単著)、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第40号、

2011・2・1

「1926年27年における魯迅の民衆像と知識人像についてのノート（下）——魯迅の民衆像・知識人像覚え書（3）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第41号、2011・8・1

「魯迅『阿金』覚え書」（単著）、『名古屋大学中国語学文学論集』第23輯、2011・12

「魯迅の『進化論から階級論へ』についての覚え書（上）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第42号、2012・2・1

「魯迅の『進化論から階級論へ』についての覚え書（下）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第43号、2012・8・1

「魯迅翻訳の『蘇俄的文芸政策』に関するノート（上）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第44号、2013・2・1

「魯迅翻訳の『蘇俄的文芸政策』に関するノート（下）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第45号、2013・8・1

「1926年から1930年前後の魯迅におけるマルクス主義文芸理論に関する覚え書（上）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第46号、2014・2・1

「日本語における可能の意味について」（共著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第47号、2014・8・1

「1926年から1930年前後の魯迅におけるマルクス主義文芸理論に関する覚え書（中）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第48号、2015・2・1

「1926年から1930年前後の魯迅におけるマルクス主義文芸理論に関する覚え書（下）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第49号、2015・8・1

「1928年中頃から1932年における魯迅翻訳のソ連文学覚え書（上）」（単著）、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第50号、2016・2・1

「魯迅翻訳のルナチャルスキー諸著作に関する覚え書——人道主義について」（単著）、『現代の日本における魯迅研究』（『言語文化叢書22』）、秋吉收編、九州大学大学院言語文化研究院、2016・3・31

論評

「『猫頭鷹』第6号所載長堀論文を読んでの二三の感想」（上）（単著）、『中国文芸研究会会報』第77号、中国文芸研究会、1988・4・30

「『猫頭鷹』第6号所載長堀論文を読んでの二三の感想」（下）（単著）、『中国文芸研究会会報』第78号、中国文芸研究会、1988・5・31

「代田智明氏の〈過敏症〉批判によせて」（単著）、『中国文芸研究会会報』第84号、中国文芸研究会、1988・10・30

「有島武郎と魯迅」（単著）、『言語・文化・人間』、名古屋大学学生部、1990・9・1

「1980年代の魯迅研究に関する二つの論考」（単著）、報告集『多元社会と未来社会』、名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元専攻、2005・3・31

「山田敏三著『魯迅 自覚なき実存』をめぐっての感想」（単著）、『季刊中国』第99号、2009・12

翻訳

「担任教師」(共訳)、劉心武原作、『大分大学経済論集』第37巻第4・5号合併号、1986・1・20、

「如意」(上)(共訳)、劉心武原作、『大分大学経済論集』第38巻第4号、1987・1・20

「如意」(下)(共訳)、劉心武原作、『大分大学経済論集』第38巻第5号、1987・1・20

「『二十世紀中国文学図誌』〈1〉(選訳)」(単訳)、『言語文化論集』第17巻第1号、名古屋大学言語文化部、1995・10・31

「『二十世紀中国文学図誌』〈2〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第17巻第2号、名古屋大学言語文化部、1996・3・25

「魯迅の精神世界に対する深奥精緻な透視——丸尾常喜著『〈人〉与〈鬼〉的糾葛』を読んで」(単訳)、楊義著、『中国図書』第8巻第7号、1996・7

「『二十世紀中国文学図誌』〈3〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第18巻第1号、名古屋大学言語文化部、1996・10・30

「『二十世紀中国文学図誌』〈4〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第18巻第2号、名古屋大学言語文化部、1997・3・25

「『二十世紀中国文学図誌』〈5〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第19巻第1号、名古屋大学言語文化部、1997・11・29

「『二十世紀中国文学図誌』〈6〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第19巻第2号、名古屋大学言語文化部、1998・3・24

「『二十世紀中国文学図誌』〈7〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第20巻第1号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、1998・11・25

「『二十世紀中国文学図誌』〈8〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第20巻第2号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、1999・3・12

「『二十世紀中国文学図誌』〈9〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第21巻第1号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、1999・10・25

「『二十世紀中国文学図誌』〈11〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第22巻第1号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2000・10・31

「台湾作家林文月の日本文学とのゆかり」(単訳)、倪金華著、『多元文化』創刊号、2001・3

「郁達夫と日本人女性お雪」(上)(単訳)、郁峻峰著、『中国文芸研究会会報』第236号、中国文芸研究会、2001・6・24

「郁達夫と日本人女性お雪」(下)(単訳)、郁峻峰著、『中国文芸研究会会報』第237号、中国文芸研究会、2001・7・31

「『二十世紀中国文学図誌』〈13〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第23巻第1号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2001・10・31

「『二十世紀中国文学図誌』〈15〉(選訳)」(共訳)、『言語文化論集』第24巻第1号、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科、2002・11・15

中国語訳

《厨川白村与1924年の鲁迅》(単著)、高鵬訳、《国外中国文学研究論叢》、中国文聯出版社、1985・7

《有関郭沫若和『關於社会組織与社会革命的若干研究』的筆記》(單著)、《郭沫若与東西方文化》、当代中国出版社、1998・6

《魯迅的復仇觀》(單著)、許丹誠訳、《華文文学》総第97号、2010・2

《論魯迅《離婚》中的民衆觀》(單著)、寇振鋒訳、《日本研究》総第140期、2012・1

《關於魯迅〈阿金〉的札記》(單著)、陳玲玲訳、《中山大学學報》第55卷第3期、2015・5・1

《1926年至1930年的魯迅与馬克思主義文芸理論(上)》(單著)、潘世聖・徐瑤訳、《上海魯迅研究2015・春》、2015・6

《從1928年“革命文学論争”至1930年前後(中)》(單著)、潘世聖訳、《上海魯迅研究2015・夏》、2015・8

《1926年-1930年間的魯迅与馬克思主義文芸理論(下)》(單著)、潘世聖訳、《上海魯迅研究2015・冬》、2016・3

《魯迅訳盧那卡爾斯基作品札記——關於人道主義》(單著)、呂雷寧校閲、『現代日本における魯迅研究』(『言語文化叢書22』)、秋吉收編、九州大学大学院言語文化研究院、2016・3・31

口頭発表

「魯迅と『壁下訳叢』の一側面」、第33回日本中国学会、1981、於北海道大学

「關於魯迅《阿金》的札記」、左翼文学与歴史背景国際學術研討会、2014・12、上海交通大学人文学院左翼文化研究中心

献 辞

中井政喜先生は、2016年3月31日を以て名古屋外国語大学を定年退職されました。先生は、名古屋大学大学院文学研究科中国文学専攻博士課程単位取得満期退学後、大分大学経済学部講師、同助教授、名古屋大学総合言語センター助教授（比較言語文化研究系）、同言語文化部教授（地域言語文化研究系）、同大学院国際言語文化研究科教授などの職を歴任された後、2008年4月、本学外国語学部教授に就任なさいました。8年前のことでした。先生は就任と同時に中国語学科の学科長に就任されました。初めてお会いした先生の印象は、大変穏やかで学識にあふれ、私達中国語学科教員一同深い尊敬の念を抱きました。4月のフレッシュマンキャンプでは、移動のバスでお隣に座った事から、先生と親しくお話させていただき、そのお人柄にふれました。

この8年の間、先生は私達中国語学科に多くの便宜をはかってくださいました。そんな中で最も印象深いのは、中国語学科研究室の大改修です。新たに設けられた学習スペースには多くの学生が訪れるようになりました。また、先生は、中国語学科非常勤講師の先生方にも大変人望がおりでした。毎年行なわれる非常勤の先生方との交流会には、先生を慕って多くの方々が出席されました。その時先生が中国語でご挨拶される一言一言が、とても深みのあるものであったことを思い出します。

ここ数年は、日中関係が難しくなり、我々中国語学科にとっては大変な試練となりました。気弱な私は不安になることもしばしばでしたが、先生はいつも励ましてくださり、勇気付けてくださいました。どんなに心強かったかわかりません。今年度は中国語学科の入学者も回復しました。一息ついております。

先生は学科会議その他の機会で、いつもにこやかに私たちに接してくださいました。ありがたいことでした。しかしある時、学生から「中井先生

の授業は厳しい」と聞いた事があります。温厚な面だけではない、先生の学問に対する厳しさを垣間見た思いがいたしました。見習わなければいけない、と思ったことでした。先生は本学では、「中国文化研究」、「中国語(講読文法)」、「中国文化C(ことばと社会)」などの授業をご担当くださいました。

先生は魯迅をはじめとする中国現代文学の専門家で、数多くの優れた業績を発表されております。大部な著書も複数刊行されております。2004年7月には博士(文学)の学位を名古屋大学より取得なさいました。とりわけ魯迅研究においては、世界的に著名で、先生のご業績は中国語に翻訳され海外に紹介されているものも少なくありません。また嬉しいことに、本学の名古屋外国語大学出版会からも、先生の魯迅研究のご著書がまもなく刊行される予定で、現在準備中です。先生の置き土産の刊行を、とても楽しみにしております。

先生はどんなに忙しくても毎年2本以上の論文を発表され続けました。また、ご自宅は岐阜県で、本学からは遠方とも言える距離なのに、毎朝誰よりも早く(8時前に)出勤されました。そして毎日最も遅くご帰宅なされるのも、先生でした。先生のこの8年間のお姿は、研究者、大学教員のあり方を示してくださる、無言の教えであったように思います。

本学は、先生のご貢献に対し、名誉教授の称号をお贈りいたしました。これを記念し、先生の御写真を飾り、年譜と著作目録を掲げ、先生を顕彰いたしたいと存じます。先生のますますのご健康とご活躍をお祈りいたします。

2016年4月1日

中国語学科

船越 達志